

【月刊HMLレポート：Vol. 229】 2020年10月号

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

このレポートは経営者および経営幹部の皆様のために作成されています！



今だからこそ解決可能な“緊急経営課題”が 従業員間の“繁閑の差”から見つかった

◇◆◇ 従来の“当たり前”を疑うべき時 ◇◆◇

◆本レポートの内容◆

- | | |
|--------------------------|---------|
| 【1】必然的に出てしまう担当者の働きの“量格差” | …… 17 頁 |
| 【2】担当制の“壁”が事業利益にも影響を及ぼす？ | …… 18 頁 |
| 【3】複数の“業務”をこなせる人材が破る担当の壁 | …… 19 頁 |
| 【4】今までにない“方向性”が求められる事業環境 | …… 20 頁 |
| 【5】まずは“緊急対応”として従来の壁を突破する | …… 21 頁 |

もちろん“兼務”もあり得ますが、通常、仕事は“1人1担当”が普通です。ところがその体制が、昨今の“事業環境の激変”の中で、『忙しい人とそうでない人の差を更に拡大している』と指摘されることがあります。

担当業務が決まってしまうと、“別の仕事”には関与しないケースの方が多いでしょうから、担当制の壁を越える発想を持たない限り、いわゆる“繁閑”の差は埋められないかも知れません。ところがこの指摘には、繁閑への対応策のみならず、それ以上の“抜本的”な視点が含まれています。



SPC 労務管理センター jinjiken 人事労務管理研究所

〒460-0015 名古屋市中区大井町 2-11 (同所併設)

Mail : info@jinjiken.co.jp

- SPC 労務管理センター TEL : 052-331-0844 FAX : 052-321-1108
- jinjiken 人事労務管理研究所 TEL : 052-331-0845 FAX : 052-321-1125

SRヒューマン・マネジメント研究会

私どもでは、人材や組織管理に関わる業務を通じて、広く皆様方のマネジメントをご支援いたしております。そうした活動から得た様々な考え方等を、当事者の皆様にご了解を頂いた上で、事例としてご提供しています。